

2021 年度横浜国立大学入学者選抜の変更について

2019 年 3 月
横浜国立大学

大学入学者選抜実施要項の見直し及び大学入学共通テスト等の実施に伴う、2021 年 4 月入学のための 2021 年度横浜国立大学入学者選抜方法の変更等については、次のとおりとします。

I. 一般選抜

1 大学入学共通テストにおける英語資格・検定試験の成績利用について

- (1) 大学入試センターが認定した英語資格・検定試験（以下「認定試験」という。）の全てを対象とします。
- (2) 原則として、2020 年 4 月から 12 月の間に受検した認定試験の成績を利用します。
- (3) 一般選抜における各学部の活用方法は次のとおりです。
 - ① 教育学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とし、さらに、A1 に該当する場合は英語の配点全体に対して 10%に相当する点数、A2 以上に該当する場合は一律英語の配点全体に対して 20%に相当する点数を大学入学共通テストの英語の得点に加点します。
 - ② 経済学部：CEFR 対照表の A2 以上を出願資格とします。
 - ③ 経営学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。
 - ④ 理工学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。
 - ⑤ 都市科学部：CEFR 対照表の A1 以上を出願資格とします。

さらに、都市社会共生学科においては、A2 に該当した場合は英語の配点全体に対して 4%、B1 に該当した場合は 8%、B2 に該当した場合は 12%、C1 に該当した場合は 16%、C2 に該当した場合は 20%にそれぞれ相当する点数を大学入学共通テストの英語の得点に加点します。

2 大学入学共通テスト「国語」の記述式問題の成績利用について

段階別成績表示を次のとおり点数化し、マークシート式の得点に加点して利用します。

- A 段階：20%に相当する点数、B 段階：15%に相当する点数、C 段階：12.5%に相当する点数、
D 段階：10%に相当する点数、E 段階：加点しません

3 大学入学共通テスト「数学」の記述式問題の成績利用について

正誤のみの判定であること、及び大問の中でマークシート式問題と一体で出題され記述式問題にも配点がなされることから、従来のマークシート方式と同様の扱いとします。

4 学力の 3 要素を多面的・総合的に評価することについて

出願時に、調査書と自己推薦書の提出を必要とします。調査書は簡潔に記載されていればよく、記述量の多寡は問いません。自己推薦書は志望学部・学科等のアドミッションポリシーを踏まえた大学入学後の目標と、その目標を達成するために努力したいことなど、学びに対する姿勢と学習意欲を確認します（400 字以内で記入）。教育学部では、面接試験において自己推薦書等を用いることがあります。

5 第一段階選抜について

- (1) 経済学部後期日程において、2020 年度入試までは約 12 倍を超えた場合には 2 段階選抜を行う予定としていましたが、2021 年度入試においては約 15 倍を超えた場合には 2 段階選抜を行う予定とします。
- (2) 経営学部前期日程において、2020 年度入試までは 2 段階選抜を行っていませんが、2021 年度入試においては約 6 倍を超えた場合には 2 段階選抜を行う予定とします。

※経済学部前期日程、経営学部後期日程については、予告倍率は変更しません。また、教育学部前期日程、理工

学部前期日程及び後期日程、都市科学部前期日程及び後期日程では2段階選抜は行いません。

6 大学入学共通テストの利用教科・科目について

- (1) 経済学部前期日程及び後期日程では、大学入試センター試験「地理歴史」において世界史A、日本史A及び地理Aも選択可能としていましたが、大学入学共通テスト「地理歴史」においては世界史B、日本史B及び地理Bに変更します。
- (2) 経済学部前期日程及び後期日程では、大学入試センター試験「理科」において基礎を付していない科目からは2科目としていましたが、大学入学共通テスト「理科」においては基礎を付していない科目からは1科目と変更します。

7 個別学力検査等の実施教科・科目等について

- (1) 経営学部前期日程では、個別学力検査を課していませんでしたが、2021年度入試では学力検査（数学又は外国語を出願時に選択）を課します。
- (2) 都市科学部都市社会共生学科前期日程では、外国語と小論文を課していましたが、2021年度入試では小論文に変更します。
- (3) 都市科学部都市社会共生学科後期日程では、外国語と小論文を課していましたが、2021年度入試では面接試験に変更します。

II. 特別選抜

1 総合型選抜（従来のAO入試）

(1) 教育学部

- ① 認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA1以上）とし、さらに、A1に該当する場合は英語の配点全体に対して10%に相当する点数、A2以上に該当する場合は一律英語配点全体に対して20%に相当する点数を大学入学共通テストの英語の得点に加点します。
- ② 第1次選抜、第2次選抜の内容は2020年度までのAO入試と変更ありませんが、最終合格者は、第2次選抜の合格者に対して課す大学入学共通テストの成績と認定試験の成績により合否判定を行い、決定します。

(2) 経済学部

- ① 「経済学を中心にしてGBEEP(Global Business and Economics 教育プログラム)での学修を希望する方のための入試」においては、認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA2以上）とします。志願者が募集人員（15名）の3倍を超えた場合は、認定試験の成績により第1次選抜を行います。
- ② 「経済学を中心にしてGBEEP(Global Business and Economics 教育プログラム)での学修を希望する方のための入試」に加え、一般プログラムでの学修を希望する方のための総合型選抜も新たに実施します。この選抜においても認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA2以上）とします。志願者が募集人員（15名）の2倍を超えた場合は、認定試験の成績により第1次選抜を行います。出願要件等は資料4で確認してください。

(3) 経営学部

「経営学を中心にしてGBEEP(Global Business and Economics 教育プログラム)での学修を希望する方のための入試」においては、認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA2以上）とします。志願者が募集人員（15名）の3倍を超えた場合は、認定試験の成績により第1次選抜を行います。

(4) 理工学部機械・材料・海洋系学科海洋空間のシステムデザイン EP

第2次選抜合格者に課していた大学入試センター試験の数学（「数学Ⅰ・数学A」と「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1）を、大学入学共通テストの数学（「数学Ⅰ・数学A」と「数学Ⅱ・数学B」）に変更します。

(5) 都市科学部都市社会共生学科

- ① 募集人員を10名から18名に変更します。
- ② 認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA1以上）とし、さらに、A2に該当した場合は英語の配点全体に対して4%、B1に該当した場合は8%、B2に該当した場合は12%、C1に該当した場合は16%、C2に該当

した場合は20%に相当する点数をそれぞれ大学入学共通テストの英語の得点に加点します。

- ③最終合格者は、第2次選抜の合格者に対して課す大学入学共通テストの成績と認定試験の成績により合否判定を行い、決定します。第2次選抜の合格者に対して課す大学入学共通テストの教科・科目は、資料3で確認してください。

(6) 都市科学部都市基盤学科、環境リスク共生学科

①認定試験を出願資格（CEFR 対照表のA1以上）とします。

- ②最終合格者は、第2次選抜の成績と、第2次選抜の合格者に対して課す大学入学共通テストの成績により合否判定を行い、決定します。第2次選抜の合格者に対して課す大学入学共通テストの教科・科目は、資料3で確認してください。

※理工学部機械・材料・海洋系学科材料工学 EP、都市科学部建築学科の総合型選抜は、2020年度までのAO入試と変更はありません。

2 学校推薦型選抜（従来の推薦入試）

(1) 教育学部

①この選抜に出願するためには、高校3年時に認定試験を受検していることが必要です。

- ②募集人員について、地域枠においては「学校教育課程全体で12名」を、「人間形成コース・教科教育コース11名、特別支援教育コース1名」に変更します。

(2) 理工学部

化学・生命系学科化学 EP・化学応用 EPにおける募集人員を22名から30名に変更します。

※経営学部、理工学部化学・生命系学科バイオ EPの学校推薦型選抜は、2020年度までの推薦入試と変更はありません。

3 その他の選抜

- (1) 都市科学部都市社会共生学科および建築学科において、帰国生徒入試を新たに実施します。募集人員は、都市社会共生学科が若干名、建築学科が2名です。出願要件等は資料5で確認してください。

- (2) 経営学部において、帰国生徒入試の出願要件を以下のとおり変更します。

日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を受けている者で、次の1~4のいずれかに該当するもの

1. 外国において学校教育における12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者で、最終学年を含めて学校暦2年以上継続してその国の正規の教育制度に基づく高等学校に在学した者
2. 外国において学校暦2年以上継続して外国の教育制度に基づく高等学校に在籍し、引き続き日本の高等学校の第3学年若しくは中等教育学校の第6学年に編入学した者で、2020年4月から2021年3月までに卒業又は卒業見込みの者
3. 外国において外国の教育制度に基づく高等学校に学校暦2年以上在学し、次の資格のいずれかを2019年又は2020年に授与された者（ただし、帰国後2年未満であること）
 - (1) スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格
 - (2) ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格
 - (3) フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格
 - (4) グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格（GCEA レベル資格）
[3科目以上合格（評価E以上）していること]
4. 外国において文部科学大臣が指定する国際的な評価団体（WASC、ACSI、CIS）から教育活動等に係る認定を受けた教育施設にて、高等学校に対応する課程で学校暦2年以上継続して学校教育を受け、12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業（修了）又は卒業（修了）見込みの者

※教育学部帰国生徒入試、経済学部外国学校出身者入試は、2020年度までと変更ありません。

＜募集人員、大学入学共通テストの利用教科・科目、個別学力検査等の出題教科・科目等＞

2021年度入学者選抜における募集人員は資料1、大学入学共通テストの利用教科・科目及び個別学力検査等の出題教科・科目等は資料2（一般選抜）、資料3（特別選抜）、資料4（経済学部総合型選抜（一般プログラム））、資料5（都市科学部都市社会共生学科及び建築学科帰国生徒入試）で確認してください。

＜大学入学共通テストの利用教科・科目、個別学力検査等の配点＞

2021年度入学者選抜における大学入学共通テストの利用教科・科目の配点及び個別学力検査等の出題教科・科目等の配点は、大学入学共通テストの配点が公表された後に公表する予定です。

2021 年度入学者選抜募集人員

学部	課程・学科・コース 教育プログラム(EP)	入学 定員	一般選抜		総合型 選抜	学校推薦型選抜		帰国生徒 入 試	外国学校 出身者 入 試	社会人 入 試	私費外国人留学生入試			YCCS 特 別 プログラム
			前期日程	後期日程		地域	全国枠				YGEP —N1 (渡日入試)	YGEP —N1 (渡日前入試)	YGEP —N2 (渡日前入試)	
教育学部	学校教育課程 人間形成コース	210	119	—	30	11	10	若干名	—	—	—	—	—	—
	学校教育課程 教科教育コース			—			40		—	—	—	—		
	学校教育課程 特別支援教育コース	20	15	—	—	1	4		—	—	—	—	—	
	小 計	230	134	—	30	66		若干名	—	—	—	—	—	
経済学部	経済学科	238	125	75	30	—	—	—	若干名	—	8	—	—	—
経営学部	経営学科	287	148	78	15	34		若干名	—	4	8	—	—	—
理工学部	機械・材料・海洋系学科 機械工学 EP	185	56	50	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
	機械・材料・海洋系学科 材料工学 EP		18	16	8	—	—	—	—	—		—		
	機械・材料・海洋系学科 海洋空間のシステムデザイン EP		17	8	10	—	—	—	—	—		—		
	化学・生命系学科 化学 EP・化学応用 EP	187	71	56	—	30		—	—	—	2	—	—	—
	化学・生命系学科 バイオ EP		15	10	—	3		—	—	—		—		
	数物・電子情報系学科 数理科学 EP	287	20	15	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—
	数物・電子情報系学科 物理工学 EP		60	30	—	—	—	—	—	—				
	数物・電子情報系学科 電子情報システム EP		63	50	—	—	—	—	—	—		—		
	数物・電子情報系学科 情報工学 EP		30	17	—	—	—	—	—	—		—		
小 計	659	350	252	18	33		—	—	—	6	—	—		
都市科学部	都市社会共生学科	74	30	12	18	—	—	若干名	—	—	2	—	—	12
	建築学科	70	40	19	7	—	—	2	—	—	2		—	—
	都市基盤学科	48	18	12	10	—	—	—	—	—	8			—
	環境リスク共生学科	56	30	10	10	—	—	—	—	—	6			—
	小 計	248	118	53	45	0		若干名	—	—	18			12
合 計		1,662	875	458	138	133		若干名	若干名	4	40			12

2021 年度入学者選抜 大学入学共通テスト利用教科・科目、個別学力検査等実施教科・科目（一般選抜）

教育学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目				英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		2段階選抜	
		教科	科目名等 (注1)			出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)		
学校教育課程 人間形成コース・ 教科教育コース	前期日程 (119名)	国語 地理歴史 公民 理科	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」から1又は2 「倫理、政治・経済」から1又は2 ①「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 ②「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ③「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ④「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2			地理歴史・公民から2 科目の場合、理科は① 又は② 地理歴史・公民から1 科目の場合、理科は③ 又は④	○※1 参照	○※2 参照	その他	集団面接試験（調査書および自己推薦書の評価を含む）と小論文（教育課題論文）、音楽の実技、美術の実技、体育の実技のうち1つを選択する。	実施しない
学校教育課程 特別支援教育コース	前期日程 (15名)	数学 外国語	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1					その他	集団面接試験（調査書および自己推薦書の評価を含む）と小論文（教育課題論文）		

※後期日程の募集はしない。

※1 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード A1 以上

※2 英語資格・検定試験の CEFR グレード別加点点数 A1 : 10% A2~C2 : 20%

- (注1) 1. 「理科」で◎を選択する場合、同一名称を付した科目（例：「物理基礎」と「物理」など）の選択を認めます。
 2. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で◎を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、次いで「地理歴史」・「公民」の第2解答科目の得点、「理科」の基礎を付した2科目の得点、「理科」の基礎を付さない1科目の得点のうち、得点の高い順に2つの得点を合否判定に用います。
 3. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で◎を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点と「理科」の第1解答科目の得点を採用し、残りの1科目は「地理歴史」・「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目の得点を合否判定に用います。
 4. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 5. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

- (注2) 1. 高い学力を有し、かつ、教員になるという意志が強く、教員になる上での資質の高い学生を選抜するため、受験者全員に集団面接試験を課します。
 2. 「小論文（教育課題論文）」の内容は、以下のとおりです。
 小論文（教育課題論文）：教育に関する日本語の文章をはじめ絵・図・表などの読み解き、あるいはそれらに基づいた文章の作成などにより、読解力・文章作成力・論理的思考力などの教員になる上での基礎的な資質を評価します。（なお、設問によっては、一部に英文を含むこともあります。）

経済学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目				英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		2段階 選抜
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注3)			
経済学科	前期日程 (125名)	国語 地理歴史	「国語」 「世界史 B」、「日本史 B」、「地理 B」	○※3 参照		数 学	数学 I、数学 II、数学 A、数学 B	約 7 倍		
		公民 数学 理科 外国語	「倫理、政治・経済」 「数学 I・数学 A」と 「数学 II・数学 B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から 1 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から 2 又は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」基礎を付さない科目から 1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から 1 [5 教科 7 科目] 又は [5 教科 8 科目] 又は [6 教科 7 科目] 又は [6 教科 8 科目]			外国語	コミュニケーション英語 I、コミュニケーション英語 II、 コミュニケーション英語 III、英語表現 I、英語表現 II			
経済学科	後期日程 (75名)	国語 地理歴史	「国語」 「世界史 B」、「日本史 B」、「地理 B」	○※3 参照		数 学	数学 I、数学 II、数学 A、数学 B	約 15 倍		
		公民 数学 理科 外国語	「倫理、政治・経済」 「数学 I・数学 A」と 「数学 II・数学 B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から 1 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から 2 又は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」基礎を付さない科目から 1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から 1 [5 教科 6 科目] 又は [5 教科 7 科目]			外国語	コミュニケーション英語 I、コミュニケーション英語 II、 コミュニケーション英語 III、英語表現 I、英語表現 II 数学又は外国語を出願時に選択 (注4)			

※3 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード A 2 以上

- (注1) 1. 「理科」について基礎を付した科目及び基礎を付していない科目の両方の科目を受験した場合には、得点の高い科目を合否判定に用います。
2. 「理科」について基礎を付していない科目を 2 科目受験した場合には第 1 解答科目の得点を合否判定に用います。
3. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
4. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 1. 「地理歴史」及び「公民」において 2 科目受験した者については、第 1 解答科目の得点を合否判定に用います。

(注3) 個別学力検査で課す数学の出題範囲

- 「数学 I」、「数学 II」及び「数学 A」については全項目とします。
- 「数学 B」については「数列」及び「ベクトル」とします。

(注4) 1. 後期日程については「数学」又は「外国語」を出願時に選択して受験してください。

経営学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目				英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)	2段階選抜		
経営学科	前期日程 (148名)	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語	「国語」 「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、 「地理 A」、「地理 B」 } から 1 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治経済」 } 「数学 I・数学 A」と 「数学 II・数学 B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」 から 1 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から 2 又は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」基礎を付さない科目から 1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」 から 1 [5教科6科目] 又は [5教科7科目]	○ ※4 参照		数 学 外国語	数学 I、数学 II、数学 A、数学 B コミュニケーション英語 I、コミュニケーション英語 II、 コミュニケーション英語 III、英語表現 I、英語表現 II 数学又は外国語を出願時に選択 (注3)	約 6 倍		
経営学科	後期日程 (78名)	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語	「国語」 「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、 「地理 A」、「地理 B」 } から 1 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治経済」 } 「数学 I・数学 A」と 「数学 II・数学 B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」 から 1 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から 2 又は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」基礎を付さない科目から 1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」 から 1 [5教科6科目] 又は [5教科7科目]	○ ※4 参照		数 学 外国語	数学 I、数学 II、数学 A、数学 B コミュニケーション英語 I、コミュニケーション英語 II、 コミュニケーション英語 III、英語表現 I、英語表現 II	約 8 倍		

※4 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード A1 以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
2. 「地理歴史」のA科目を第1解答科目として選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校においてA科目を履修した者（高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定で「地理歴史」のA科目を合格している者を含みます。）に限ります。
3. 「理科」について基礎を付した科目及び基礎を付していない科目の両方の科目を受験した場合には、得点の高い科目を合否判定に用います。
4. 「理科」について基礎を付していない科目を2科目受験した場合には、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
5. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
6. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 個別学力検査で課す数学の出題範囲

- 「数学 I」、「数学 II」及び「数学 A」については全項目とします。
- 「数学 B」については「数列」及び「ベクトル」とします。

(注3) 1. 前期日程については「数学」又は「外国語」を出願時に選択して受験してください。

理工学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目				英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)	2段階 選抜		
機械・材料・海洋系学科	前期日程 (91名) 機械工学E P (56名) 材料工学E P (18名) 海洋空間のシステムデザインE P (17名)	国語	「国語」	○※5参照		数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B	実施しない		
	地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	から1			理科	物理基礎・物理、化学基礎・化学			
公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」	から1				外国語	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ			
数学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1		から2							
理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2									
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1									
			[5教科7科目]							
	後期日程 (74名) 機械工学E P (50名) 材料工学E P (16名) 海洋空間のシステムデザインE P (8名)	国語	「国語」	○※5参照		数学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B	実施しない		
地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	から1	理科			物理基礎・物理、化学基礎・化学				
公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」		から1							
数学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1	から2								
理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2									
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1									
			[5教科7科目]							

※5 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード

A1 以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
 2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 個別学力検査の出題範囲

- 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
- 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
- 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。

理工学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目			英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目			2段階 選抜
		教科	科目名等 (注1)		出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)		
化学・生命系学科	前期日程 (86名) 化学E P及び 化学応用E P (71名)	国語	「国語」		○ ※6 参照		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B		実施 しない
	バイオE P (15名)	地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」				理 科	物理基礎・物理、化学基礎・化学		
公民		「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」		数 学	コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ					
数学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1		理 科		数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B					
理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2			外国語	物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 } から2 (注3)					
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1		[5教科7科目]		コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ					
	後期日程 (66名) 化学E P及び 化学応用E P (56名) バイオE P (10名)	国語	「国語」		○ ※6 参照		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B		実施 しない
地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」		理 科	物理基礎・物理、化学基礎・化学						
公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」			数 学						
数学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1		理 科							
理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2			[5教科7科目]						
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1									

※6 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード A1以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
 2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。
 3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)

(注2) 個別学力検査の出題範囲

- 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
- 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
- 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。
- 「生物基礎・生物」は生物基礎・生物の全範囲から出題します。

(注3) 化学・生命系学科バイオE Pの理科は物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物の3科目の中から2科目を受験してください。

理工学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目				英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)	2段階 選抜		
数物・電子情報系 学科	前期日程 (173名) 数理学E P (20名) 物理学E P (60名) 電子情報システム E P (63名) 情報工学E P (30名)	国語	「国語」	○ ※7 参照		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B	実施 しない		
	地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	から1			理 科	物理基礎・物理、化学基礎・化学			
公 民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」	外国語				コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ				
数 学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1									
理 科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2									
		外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1							
			[5教科7科目]							
	後期日程 (112名) 数理学E P (15名) 物理学E P (30名) 電子情報システム E P (50名) 情報工学E P (17名)	国語	「国語」	○ ※7 参照		数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B	実施 しない		
地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	から1	理 科			物理基礎・物理、化学基礎・化学				
公 民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」									
数 学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1									
理 科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2									
		外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1							
			[5教科7科目]							

※7 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード **A1 以上**

- (注1)** 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
 2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 個別学力検査の出題範囲

- 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
- 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
- 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。

都市科学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目			英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等	2段階 選抜	
都市社会共生 学科	前期日程 (30名)	国語 地理歴史 公民 理科 数 学 外 国 語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」から1又は2 「倫理、政治・経済」 ① 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 ② 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ③ 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ④ 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 地理歴史・公民から1科目の場合 [5教科7科目] 又は [5教科8科目] 地理歴史・公民から2科目の場合 [5教科7科目] 又は [5教科8科目] 又は [6教科7科目] 又は [6教科8科目]	○ ※8 参 照	○ ※9 参 照	その他	小論文 (注2)	実施しない	
都市社会共生 学科	後期日程 (12名)	国語 地理歴史 公民 理科 数 学 外 国 語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」から1又は2 「倫理、政治・経済」 ① 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 ② 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ③ 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ④ 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 地理歴史・公民から1科目の場合 [5教科7科目] 又は [5教科8科目] 地理歴史・公民から2科目の場合 [5教科7科目] 又は [5教科8科目] 又は [6教科7科目] 又は [6教科8科目]	○ ※8 参 照	○ ※9 参 照	その他	面接試験	実施しない	

※8 出願要件として有効とする英語資格・検定試験の CEFR グレード A1 以上

※9 英語資格・検定試験の CEFR グレード別加点点数 (都市社会共生学科)	A1 : 0	A2 : 4%	B1 : 8%	B2 : 12%	C1 : 16%	C2 : 20%
---	--------	---------	---------	----------	----------	----------

- (注1) 1. 「理科」で③を選択する場合、同一名称を付した科目 (例: 「物理基礎」と「物理」など) の選択を認めず。
 2. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で③を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、次いで「地理歴史」・「公民」の第2解答科目の得点、「理科」の基礎を付した2科目の得点、「理科」の基礎を付さない1科目の得点のうち、得点の高い順に2つの得点を合否判定に用います。
 3. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で④を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点と「理科」の第1解答科目の得点を採用し、残りの1科目は「地理歴史」・「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目の得点を合否判定に用います。
 4. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者 (旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。) 及び専修学校の高等課程の修了 (見込み) 者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目 (「社会と情報」・「情報の科学」等) を履修した者は該当しません。
 5. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)

(注2) 「小論文」の内容は、以下のとおりです。
 都市社会共生学科：これからの都市を様々に構想することを背景におきながら、共生社会と多様性のあり方、文化や芸術の可能性、グローバルとローカルの接合などに関連して提示された人文社会領域の素材について、内容把握の読解力、問題点を解決するための発想力、考えを表現するための論理的思考力や表現力を評価します。

都市科学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目			英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)	2段階 選抜	
建築学科	前期日程 (40名)	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※10 参照		数 学 理 科 外国語	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 物理基礎・物理 化学基礎・化学 コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	実施しない	
建築学科	後期日程 (19名)	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※10 参照		数 学 理 科	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 物理基礎・物理 化学基礎・化学	実施しない	

※10 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード A1以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
 2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

- (注2) 個別学力検査の出題範囲
 1. 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
 2. 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
 3. 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
 4. 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。

都市科学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目			英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注2)	2段階 選抜	
都市基盤学科	前期日程 (18名)	国語 地理歴史 公民科 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※11 参照		数 学 理 科 外国語	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 物理基礎・物理 化学基礎・化学 コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	実施 しない	
都市基盤学科	後期日程 (12名)	国語 地理歴史 公民科 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※11 参照		数 学 理 科	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 物理基礎・物理、 化学基礎・化学	実施 しない	

※11 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A1以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
 2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 個別学力検査の出題範囲

- 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
- 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
- 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。

都市科学部

学科名	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目			英語資格・検定試験の活用方法		個別学力検査等の実施教科・科目		
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	教科	科目名等 (注4)	2段階選抜	
環境リスク共生学科	前期日程 (30名)	国語 地理歴史 公民科 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※12 参照		数 学 理 科 外国語	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 物理基礎・物理 化学基礎・化学 生物基礎・生物 地学基礎・地学 コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、 英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ 〔注2〕	実施しない	
環境リスク共生学科	後期日程 (10名)	国語 地理歴史 公民科 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 〔5教科7科目〕	○ ※12 参照		数 学 その他	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、 数学A、数学B 小論文〔注3〕	実施しない	

※12 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A1以上

- (注1) 1. 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
2. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
3. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 環境リスク共生学科の理科は物基・物、化基・化、生基・生、地学基・地学の4科目の中から2科目を受験してください。

(注3) 「小論文」の内容は、以下のとおりです。

環境リスク共生学科：自然環境や生態環境、社会環境の様々なリスクに関連して提示された素材に関し、内容把握の読解力、問題点を解決するための発想力、考えを表現するための論理的思考力や表現力を評価します。

(注4) 個別学力検査の出題範囲

- 「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」及び「数学A」は全範囲から出題します。
- 「数学B」は「数列」、「ベクトル」を出題範囲とします。
- 「物理基礎・物理」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。
- 「化学基礎・化学」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。
- 「生物基礎・生物」は生物基礎・生物の全範囲から出題します。
- 「地学基礎・地学」は地学基礎・地学の全範囲から出題します。

2021 年度入学者選抜 大学入学共通テスト利用教科・科目、選抜方法（特別選抜）

教育学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	
学校教育課程 人間形成コース・ 教科教育コース	総合型選抜 【旧AO入試】 (30名)	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 } から1又は2 「倫理、政治・経済」 } ① 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」 から2 } ② 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 から1 } ③ 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」 から2 } ①～④の 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 から1 } いずれか ④ 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 から2 } 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」 から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」 から1 地理歴史・公民から1科目の場合〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 地理歴史・公民から2科目の場合〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 又は〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕 なお、英語資格・検定試験を利用する。(※1、2参照)	○ ※1 参照	○ ※2 参照	【第1次選抜】 自己推薦書、調査書、課題レポートの評価と併せて、小論文試験を課して、それらの結果を総合的に判断して第1次選抜合格者を決定します。小論文試験は、小学校の授業風景を撮影したビデオを視聴の上、与えられた課題の論述を行います。 【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対し、提出書類の内容を基に、複数の面接員による個人面接を行います。個人面接では、その場で与えた課題に対するプレゼンテーション（パフォーマンスも可）を行います。また、これまでの体験的活動や課題レポート等について説明していただき、教育の今日的課題等の質問を行います。 小学校教員を志す者として、教育に対する情熱やコミュニケーション能力を有するかを総合的に評価し、第2次選抜合格者を決定します。 【最終合格者決定】 第2次選抜合格者に対し、大学入学共通テスト（英語資格・検定試験を含む）の成績により選抜を行います。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
学校教育課程 人間形成コース・ 教科教育コース・ 特別支援教育コース	学校推薦型選抜 【旧推薦入試】 (66名)		課さない ※ただし、この選抜に出願するためには、高校3年時に英語資格・検定試験を受験していることが必要です。			入学者の選抜は、大学入学共通テスト及び個別学力検査等を免除し、小論文及び個人面接による試験、推薦書、調査書、志願理由書、自己推薦書、英語資格・検定試験、音楽の専門領域を志願する者のみ聴音（2声の書き取り（大譜表、8小節程度））の実技試験、これらを総合的に評価します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。 ※全国卒の一部の専門領域には個別の要件があります（※3参照。）。
学校教育課程 人間形成コース・ 教科教育コース・ 特別支援教育コース	帰国生徒入試 (若干名)		課さない			入学者の選抜は、大学入学共通テスト及び個別学力検査等を免除し、小論文及び個人面接による試験、学業成績証明書、志望理由書及び自己推薦書の内容を総合して行います。

※1 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード A1以上

※2 英語資格・検定試験のCEFRグレード別加点点数 A1：10% A2～C2：20%

※3 個別の要件

- 美術の専門領域の志願者にあつては、本人が高等学校在学中に行った美術活動に関するファイル1冊及び、本学所定の活動証明書によりその成果を証明できるものを提出できる者
- 保健体育の専門領域の志願者にあつては、都道府県大会・競技会で8位以内か、地区大会（都道府県大会より上位の大会を指す。例：関東地区大会、南関東地区大会 など）、全国大会、国際大会に出場した者。この場合、それに該当することを証明できる資料のコピーを添付すること。団体競技の場合は、志願者が競技に参加したことが証明できるものを添付すること。
- 家庭科の専門領域の志願者にあつては、自分の現在の生活を振り返り、家族・家庭や衣食住に関する課題を設定しレポートにまとめて提出できる者。なお、レポートには課題設定の理由・課題解決の方法・結果・考察を含む（A4用紙使用、字数制限なし）。
- 英語の専門領域の志願者にあつては、英語に関する学内外での活動（海外研修・英語ディベート入賞など）経験がある場合はその証明書（様式任意、学校長の押印が必要）を提出すること。

- (注1)
1. 「理科」で◎を選択する場合、同一名称を付した科目（例：「物理基礎」と「物理」など）の選択を認めます。
 2. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で◎を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、次いで「地理歴史」・「公民」の第2解答科目の得点、「理科」の基礎を付した2科目の得点、「理科」の基礎を付さない1科目の得点のうち、得点の高い順に2つの得点を合否判定に用います。
 3. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で④を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点と「理科」の第1解答科目の得点を採用し、残りの1科目は「地理歴史」・「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目の得点を合否判定に用います。
 4. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
 5. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

経済学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	
経済学科 Global Business and Economics 教育プログラム (経済学部・経営学部共同教育プログラム)	総合型選抜 【旧AO入試】 (15名)	数 学 外国語	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 [2教科3科目]	○ ※4 参 照		入学者選抜は、第1次選抜、第2次選抜及び最終選抜の3段階で行います。 【第1次選抜】 志願者が募集人員の3倍を超えた場合は、英語資格・検定試験のスコアにより選抜を行います。 【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対し、自己推薦書及び他の提出書類により面接試験を行い、熱意と適性を総合的に判断します。 【最終選抜】 第2次選抜合格者に対し、大学入学共通テストを課し、第2次選抜の成績及び大学入学共通テストの成績により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
経済学科	外国学校出身者選抜 (若干名)		課さない			入学者の選抜は、第1次選抜、第2次選抜の2段階で行います。 【第1次選抜】 出願書類(統一試験等成績評価証明書、出身学校成績証明書)により選抜を行います。 【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対し、小論文及び面接を課して選抜を行います。

※4 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A2以上

2021年度入学者選抜から募集する総合型選抜(経済学部一般プログラム)については、資料4で確認してください。

- (注1) 1. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。
2. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)

経営学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等	出願要件	加点	
経営学科 Global Business and Economics 教育プログラム (経済学部・経営学部共同教育プログラム)	総合型選抜 【旧AO入試】 (15名)	数 学 外国語	(注1) 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 [2教科3科目]	○	※5 参照	入学者選抜は、第1次選抜、第2次選抜及び最終選抜の3段階で行います。 【第1次選抜】 志願者が募集人員の3倍を超えた場合は、英語資格・検定試験のスコアにより選抜を行います。 【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対し、自己推薦書及び他の提出書類により面接試験を行い、熱意と適性を総合的に判断します。 【最終選抜】 第2次選抜合格者に対し、大学入学共通テストを課し、第2次選抜の成績及び大学入学共通テストの成績により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
経営学科	学校推薦型選抜 【旧推薦入試】 (34名)		課さない			選抜は、小論文、面接による試験と志望理由書、出身学校長が作成した調査書を総合して行います。大学入学共通テストは免除します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
経営学科	社会人入試 (4名)		課さない			選抜は、小論文、面接、志望理由書、在職証明書、出身高等学校の調査書を総合して行います。大学入学共通テストは免除します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
経営学科	帰国生徒入試 (若干名) ※6 参照		課さない			選抜は、小論文及び面接による試験と志望理由書・成績証明書を総合して行います。

※5 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A2以上

- (注1) 1. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。
2. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)

※6 2021年度経営学部帰国生徒入試出願要件について

学科名等		選抜方法 (募集人員)		大学共通テスト試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等 教科・科目名等		出願要件の一部変更	
2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度	2021年度	2020年度
経営学科 (変更なし)	経営学科	帰国生徒入試 (若干名) (変更なし)	帰国生徒入試 (若干名)	課さない (変更なし)	課さない	小論文 面接 (変更なし)	小論文 面接	日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を受けている者で、次の1～4のいずれかに該当するもの 1. 外国において学校教育における12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者で、最終学年を含めて学校暦2年以上継続してその国の正規の教育制度に基づく高等学校に在学した者 2. 外国において学校暦2年以上継続して外国の教育制度に基づく高等学校に在籍し、引き続き日本の高	日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を受けている者で、 <u>保護者の海外勤務等やむを得ない事情により外国の学校教育を受けた者で、次の基礎資格を有し、かつ、基礎資格に対応する要件を満たす者(保護者が先に帰国した場合は、その後の滞在が1年未満であること。)</u>

								<p>等学校の第3学年若しくは中等教育学校の第6学年に編入学した者で、2020年4月から2021年3月までに卒業又は卒業見込みの者</p> <p>3. 外国において外国の教育制度に基づく高等学校に学校暦2年以上在学し、次の資格のいずれかを2019年又は2020年に授与された者(ただし、帰国後2年未満であること)</p> <p>(1)スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格</p> <p>(2)ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格</p> <p>(3)フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格</p> <p>(4)グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEA レベル資格) [3科目以上合格(評価 E 以上)していること]</p> <p>4. 外国において文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC、ACSI、CIS)から教育活動等に係る認定を受けた教育施設にて、高等学校に対応する課程で学校暦2年以上継続して学校教育を受け、12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者</p>
--	--	--	--	--	--	--	--	---

理工学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	
機械・材料・海洋系学科	総合型選抜 【旧AO入試】 材料工学EP (8名)	数 学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1			第1次選抜：書類審査 第2次選抜：面接試験（口頭試問含む） 最終合格者決定：第2次選抜合格者に対し、大学入学共通テストを課し、大学入学共通テストの結果により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
	理 科	「物理」、「化学」				
		外 国 語	「英語」			
			[3教科5科目]			
	総合型選抜 【旧AO入試】 海洋空間のシステム デザインEP (10名)	国 語	「国語」			第1次選抜：書類審査 第2次選抜：面接試験（口頭試問含む） 最終合格者決定：第2次選抜合格者に対し、大学入学共通テストを課し、大学入学共通テストの結果により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」と、「数学Ⅱ・数学B」			
		外 国 語	「英語」			
			[3教科4科目]			
化学・生命系学科	学校推薦型選抜 【旧推薦入試】 化学EP及び 化学応用EP (30名) バイオEP (3名)	国 語	「国語」			大学入学共通テストの成績・推薦書・調査書及び面接により、合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」			
		公 民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」			
		数 学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1			
		理 科	「物理」、「化学」、「生物」から2			
		外 国 語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1			
			[5教科7科目]			

(注1) 1. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。

2. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2) 「地理歴史」及び「公民」については、第1解答科目で指定した科目を受験してください。なお、2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。

都市科学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等	出願要件	加点	
都市社会共生学科	総合型選抜 【旧AO入試】 (18名)	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語	<p>【注1】</p> <p>「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 } から1 「倫理、政治・経済」 } ① 「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」 から1 } ②又は③のいずれか ④ 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」 から1</p> <p>②の場合 [4教科5科目] ③の場合 [4教科4科目]</p>	○ ※7 参照	○ ※8 参照	<p>【第1次選抜】 以下の書類による選抜を行います。 1. 特色活動説明書及び学習計画書 2. 調査書等:都市社会共生学科への適性を判断するために使用します。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、文章実技+面接試験による選抜を行う。論理的思考力や判断力を問う内容で行います。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜合格者に対し、左欄の大学入学共通テストの試験教科・科目を課し、大学入学共通テスト及び英語資格・検定試験の結果により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p>
建築学科	総合型選抜 【旧AO入試】 (7名)		課さない			<p>【第1次選抜】 書類審査及び実技試験とします。 以下により、建築学科への熱意と適性の評価を行います。 1. 自己推薦書(本学様式) 建築学科に対する熱意を1,000字程度で自己推薦してください。 図を入れても結構ですが字数に含みません。文字・図は手書きが条件です。 2. 調査書等 建築学科への適性を判断するために使用します。 3. 実技試験 自己推薦書による適性及び能力を判断するために実技試験(造形に関する思考力・表現力の検査)を課します。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、面接試験(口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力の検査)を課します。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜時の試験結果により、最終合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p>

※7 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A1以上

※8 英語資格・検定試験のCEFRグレード別加点点数

A1: 0	A2: 4%	B1: 8%	B2: 12%	C1: 16%	C2: 20%
-------	--------	--------	---------	---------	---------

2021年度入学者選抜から募集する帰国生徒入試(都市社会共生学科、建築学科)については、資料5で確認してください。

- 【注1】
- 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。
 - 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)
 - 「地理歴史」及び「公民」については、第1解答科目で指定した科目を受験してください。なお、2科目受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。

都市科学部

学科名等	学力検査等の区分 (募集人員)	大学入学共通テストの利用教科・科目		英語資格・検定試験の活用方法		選抜方法
		教科	科目名等 (注1)	出願要件	加点	
都市基盤学科	総合型選抜 【旧AO入試】 (10名)	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」 } から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 [5教科7科目]	○ ※9 参照		<p>【第1次選抜】 書類選抜とします。以下の書類により、都市基盤学科への熱意と適性の評価を行います。</p> <p>1. 自己推薦書(本学様式) 都市基盤学科に対する熱意を、以下の点についてそれぞれ指定された字数で記述してください。 図を入れても結構ですが字数には含みません。文書・図は手書きが条件です。 (1) 都市基盤学科を志望する理由(自分の能力や実績、社会や技術に対する自分の考えなどとの関係から記述してください): 400字程度 (2) 都市基盤学科を卒業した後の自分の姿: 200字程度 (3) 自分の特徴(良い点、悪い点): 200字程度 (4) いままで勉強以外で力を入れてきたことや得意なことなど: 200字程度</p> <p>2. 調査書等 都市基盤学科への適性を判断するために使用します。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、面接試験(口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力の検査)を課します。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜合格者に対し、左欄の大学入学共通テスト教科・科目を課し、第2次選抜の成績及び大学入学共通テストの成績により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p>
環境リスク共生学科	総合型選抜 【旧AO入試】 (10名)	国語 地理歴史 公民 理科 数学 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」 } から1 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 [5教科7科目]	○ ※9 参照		<p>【第1次選抜】 以下の書類による選抜を行います。</p> <p>1. 自己推薦書 環境リスク共生学科に対する熱意を1,000字程度で自己推薦してください。 図を入れても結構ですが字数に含みません。文字・図は手書きが条件です。</p> <p>2. 調査書等 環境リスク共生学科への適性を判断するために使用します。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、適性及び能力を判断するために、実際の研究材料や資料、データなどを調べ、結果をまとめて発表する実習(環境学への興味とセンス、思考力、発想力、表現力の検査)を課します。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜合格者に対し、左欄の大学入学共通テスト教科・科目を課し、第2次選抜の成績及び大学入学共通テストの成績により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p>

※9 出願要件として有効とする英語資格・検定試験のCEFRグレード

A1以上

- (注1) 1. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。
2. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)
3. 「地理歴史」及び「公民」については、第1解答科目で指定した科目を受験してください。なお、2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。

経済学部 総合型選抜（一般プログラム）

実施学部 学科名等	経済学部 経済学科
募集人員	15名
出願要件	<p>次の基礎資格を有し、かつ、要件を満たす者</p> <p>【基礎資格】 次の1～4のいずれかに該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び2021年3月までに卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び2021年3月までに修了見込みの者 3. 学校教育法施行規則第150条第1号から第5号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び2021年3月31日までにこれらに該当する見込みの者 4. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したものと及び2021年3月31日までに18歳に達するもの <p>【要件】 以下の1～3に該当する者</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 合格した場合には入学することを確約できる者 2. 2021年度大学入学共通テストにおいて、本学部の指定する教科・科目を受験する者 3. 英語資格・検定試験においてCEFR対照表のA2以上に該当する者
選抜方法	<p>入学者選抜は、第1次選抜、第2次選抜及び最終選抜の3段階で行います。</p> <p>【第1次選抜】 志願者が募集人員の2倍を超えた場合は、英語資格・検定試験のスコアにより選抜を行います。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対し、自己推薦書及び他の提出書類により面接試験を行い、熱意と適性を総合的に判断します。</p> <p>【最終選抜】 第2次選抜合格者に対し、以下の大学入学共通テストを課し、第2次選抜の成績及び大学入学共通テストの成績により、最終的な合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p> <p>国語 「国語」</p> <p>数学 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 ※「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」、「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。</p> <p>外国語 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1 ※「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」免除を許可された者を除く。）</p>
その他	出願期日、選抜期日、合格発表日などは、当該年度の入学者選抜要項及び学生募集要項で公表します。

都市科学部 帰国生徒入試

実施学部 学科名等	都市科学部 都市社会共生学科
募集人員	若干名
出願要件	<p>日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者で、次の(1)～(4)のいずれかに該当する者</p> <p>(1)外国において学校教育における12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者で、外国の教育制度に基づく高等学校に最終学年を含めて学校暦2年以上継続して学校教育を受けた者</p> <p>(2)外国の教育制度に基づいて外国に設置された学校から、引き続き日本の高等学校の第3学年若しくは中等教育学校の第6学年に編入し、2020年4月か2021年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次の①・②のどちらかを満たす者</p> <p>① 外国の学校教育制度に基づく中学校ないし高等学校に通算3年以上在籍した者</p> <p>② 外国の学校教育制度に基づく高等学校に学校暦2年以上継続して在籍した者</p> <p>(3)外国において次のa～dのいずれかを2019年又は2020年に授与された者</p> <p>a スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格</p> <p>b ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格</p> <p>c フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格</p> <p>d グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格 (GCEA レベル資格)</p> <p>[3科目以上合格(評価E以上)していること]</p> <p>(4)外国において文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC, ACSI, CIS)から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者</p> <p>注1:「外国において学校教育における12年の課程」とは、地理的場所的に外国で、原則として、その国において制度上正規の学校教育に位置付けられたものであって、卒業(修了)により大学への受験資格を得られることを要します。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者(2出願要件(3)又は(4)を満たす者は除く)については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会してください。</p> <p>注2:外国に設置された学校であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとはみなしません。</p> <p>注3:本学他学部また都市科学部他学科の帰国生徒入試(外国学校出身者入試を含む)との併願は認めません。</p>
選抜方法	<p>【第1次選抜】 以下の書類による選抜を行います。</p> <p>1. 特色活動説明書及び学習計画書</p> <p>2. 成績証明書等</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、文章実技+面接試験による選抜を行う。論理的思考力や判断力を問う内容で行います。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜の結果により最終合格者を決定します。</p> <p>※大学入学共通テストは課しません。</p>
その他	出願期日、選抜期日、合格発表日などは、当該年度の入学者選抜要項及び学生募集要項で公表します。

都市科学部 帰国生徒入試

実施学部 学科名等	都市科学部 建築学科
募集人員	2名
出願要件	<p>日本国籍を有する者又は日本国の永住許可を得ている者で、次の(1)～(4)のいずれかに該当する者</p> <p>(1)外国において学校教育における12年の課程を、2019年4月1日から、2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者で、外国の教育制度に基づく高等学校に最終学年を含めて学校暦2年以上継続して学校教育を受けた者</p> <p>(2)外国の教育制度に基づいて外国に設置された学校から、引き続き日本の高等学校の第3学年若しくは中等教育学校の第6学年に編入し、2020年4月から2021年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次の①・②のどちらかを満たす者</p> <p>① 外国の学校教育制度に基づく中学校ないし高等学校に通算3年以上在籍した者</p> <p>② 外国の学校教育制度に基づく高等学校に学校暦2年以上継続して在籍した者</p> <p>(3)外国において次のa～dのいずれかを2019年又は2020年に授与された者</p> <p>a スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格</p> <p>b ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格</p> <p>c フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格</p> <p>d グレートブリテン及び北アイルランド連合王国の大学入学資格として認められているジェネラル・サーティフィケート・オブ・エデュケーション・アドバンスト・レベル資格(GCEA レベル資格)</p> <p>[3科目以上合格(評価E以上)していること]</p> <p>(4)外国において文部科学大臣が指定する国際的な評価団体(WASC, ACSI, CIS)から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を2019年4月1日から2021年3月31日までに卒業(修了)又は卒業(修了)見込みの者。</p> <p>注1:「外国において学校教育における12年の課程」とは、地理的場所的に外国で、原則として、その国において制度上正規の学校教育に位置付けられたものであって、卒業(修了)により大学への受験資格を得られることを要します。インターナショナルスクールやアメリカンスクール等の出身者(2 出願要件(3)又は(4)を満たす者は除く)については、本規定によって出願が認められないケースや出願資格の確認等に時間がかかる場合があるので、早めに照会してください。</p> <p>注2:外国に設置された学校であっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校に在学した者については、その期間を外国において学校教育を受けたものとはみなしません。</p> <p>注3:本学他学部また都市科学部他学科の帰国生徒入試(外国学校出身者入試を含む)との併願は認めません。</p>
選抜方法	<p>【第1次選抜】 書類審査・実技試験・小論文による選抜を行います。以下により、建築学科への熱意と適性の評価を行います。</p> <p>1. 自己推薦書(本学様式) 海外での生活経験をふまえて、建築学科に対する熱意を1,000字程度で自己推薦してください。図を入れても結構ですが、字数に含みません。文字・図は手書きが条件です。</p> <p>2. 調査書等 建築学科への適性を判断するために使用します。</p> <p>3. 実技試験及び小論文 自己推薦書による適性及び能力を判断するために、実技試験(造形に関する思考力・表現力の検査)及び小論文を課します。</p> <p>【第2次選抜】 第1次選抜合格者に対して、面接試験(口頭試問による論理的思考力・理解力・表現力の検査)を課します。</p> <p>【最終合格者決定】 第2次選抜の結果により最終合格者を決定します。選抜の結果によっては、合格者数が募集人員に満たない場合があります。</p> <p>※大学入学共通テストは課しません。</p>
その他	出願期日、選抜期日、合格発表日などは、当該年度の入学者選抜要項及び学生募集要項で公表します。